



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# アントレプレナー 折原 龍 (B)

5

## — 25歳の航空地図は何を指し示すのか —

2009年、カリフォルニア州ロサンゼルス北上、サンホアキン・バレーの上空。砂漠地帯を猛スピードで横切る航空機のcockpitの中に折原龍氏はいた。彼は日系航空会社の専属パイロット候補として、過酷なフライト訓練に耐える日々を送っていた。

10

## 学生ベンチャー解散、そして就職

### 1. 大企業に就職する

15

2008年春、大学3年生だった折原氏は自身が代表を務めるITサービスのベンチャーを解散した。理由は、初期からの仲間であり、会社のCFOであり、プロダクトの主力開発者であるプログラマーが抜けたからだ。解散してからの2、3ヶ月、折原氏は「自分が本当は何がしたいのか」を繰り返し自問自答していた。「たぶん、自分がやりたいことはITではないんだろうな・・・。」

20

もう一度、新しい事業を立ち上げる気力はなかった。燃え尽き症候群だった。10ヶ月間、どっぷりとビジネスに浸かっていたこともあり、売り上げや利益を追いかけるビジネスの世界から離れたかった。もつと、なにか、「手に職」的な世界に身を置きたくなった。

大学4年生になった折原氏は、専門性が身につく職業への就職を目指して就活を始めた。「やるからには結果を出したい」と気持ちをなんとか奮い立たせた。メーカーを筆頭に、さまざまな業種の企業を調べた。学生ベンチャーの代表を務めていた経験があるせいか、折原氏は経営者の視点から企業を分析するようにしていた。気になる企業を見つけたら、その企業の有価証券報告書をチェックし、今後

25

このケースは折原 龍氏の全面的な協力により作成された。謝意を表す。作成者は高木晴夫・新村和大・渡邊万里子である。本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 高木晴夫・新村和大・渡邊万里子（2017年11月作成）